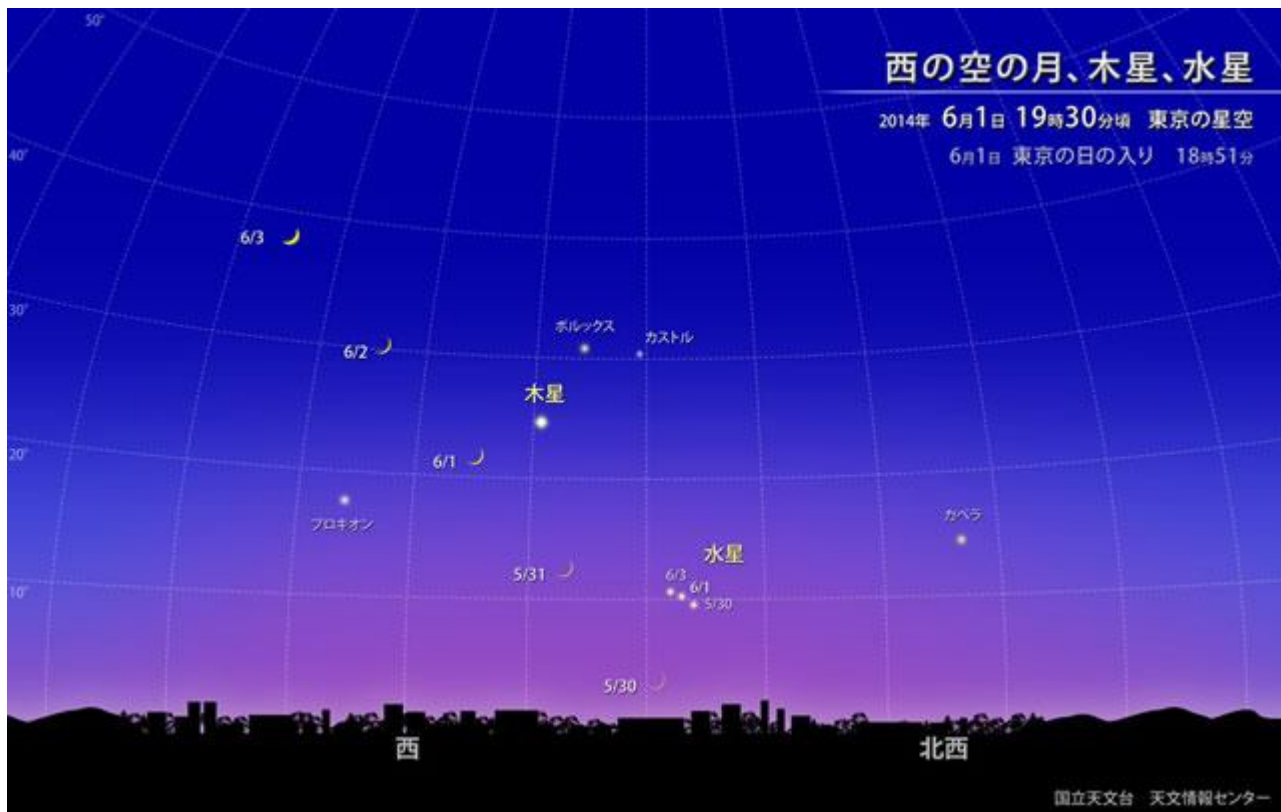


6月の初旬から中旬に掛けて例年梅雨入りになる（関東地方）事を思うと天候の事が心配ですが、梅雨空の合間の晴れ時に観望をして見ましょう。

日が暮れ茜色の夕空が見える頃、6月1日頃には木星と月例3.7の細い月が並んで見え夕空を飾る事でしょう、また木星の下の方には今年一番観望条件の良い水星が見えていますので観望に挑戦してみてくださいはどうか。



また10日前後には相次いで月が火星と土星に近づきますので月との色の対比も楽しんで見ては。



6月は比較的静かな星空ですがそれでも明るく目立つ惑星（火星と土星）が夜空を飾っています。

地球から我が銀河系の中心方向を見てみると星が集まって雲の様に見える天の川があります、銀河系の外を見ようとすると天の川の方ではそれらの星が邪魔をして遠くを見渡せません、よって天の川から直角の方向に目を移すと肉眼で見える星の数が少ない場所があります、それが春と秋の星空になります、この方向を見ると数千万光年から数億光年遠方にある銀河団（銀河系と同規模の物が50-1000個が集まっている集団）が観測によって幾つも確認されています。又この銀河団が数千、数万個集まっているのが超銀河団このような集まりが宇宙には幾つあるのか想像も出来ませんね。

また恒星が有れば、その数倍の惑星が存在するはずですが、その中の0.1%に生命が育つ環境の惑星が有りその0.1%に実際に生命が誕生していてもおかしくないと思います、またまた、その0.01%に高等生物が居ると考えた方が合理的だと思いますので、架空の計算ですが我が銀河系には2千億の恒星がありその5倍の惑星が有るとして計算してみると10万の生命を持つ惑星が有りその内100の惑星に高等生物が存在する可能性が有る事になります。

（あくまでも銀河系の中だけの数としてであり、宇宙全体としてはその数億倍以上の数になると個人的には考えています。）

それだけの宇宙人が居ればいつの日かコンタクトを取れる日が来るかもしれませんね。実際、電波望遠鏡を使って地球外生命体探査計画（SETI計画）と言う物が世界中の研究機関や大学で今現在探査を進めています。

その様なことを雨が降って観望が出来ない時に思いを馳せるのもまた楽しいものです。

